

活動分野	緑のおもしろ講座		
タイトル	千葉氏ゆかりの千葉寺と平安古道を歩く		
実施日時	平成28年7月10日(日) 10時~14時		
実施場所	千葉市 千葉寺・青葉の森公園・千葉大医学部		
受講者	15名	FIC会員他スタッフ	8名

## 活動の内容

低気圧が1日早く通過したため、望外の好天に恵まれ無事終了することができました。基本は青葉の森公園での樹木観察、「氷河期を生き延びた樹木たち」ということで、イチョウ・メタセコイア・ヒマラヤスギ・コウヤマキ・スダジイ・ラクウショウ・コナラ・トチノキ・アメリカフウモミジバズカケノキ(プラタナス)等、樹木の前で、あらかじめ用意した質問事項を交えての解説をした。



また、ブラシノキにたくさんの実がついていて、火事で一定以上の高温に遭遇しないと発芽しない性質、アカンサスの花がコリント式建築のデザインのヒントになったこと、なかでもコウヤマキのマツボックリの先から葉が伸びだしている、バラの貫生花と同じ現象を示す事例が見つかり、花は葉が進化したものであるという事例の紹介が出来ました。



千葉寺では、樹齢800年のイチョウの樹の前で、学名設定の由来であるとか、針葉樹・広葉樹の違いなどの説明、同時に千葉寺・千葉氏のかかわり等についての説明をしました。青葉の森公園に向かう途中のお宅にカイツカイブキの生垣があり、一部先祖帰りをしている葉があり、樹木の生態についての事例説明が出来ました。

昼食は炎天下を避け、急遽中央博物館地階ロビーを利用させていただき、お礼に希望者を館内にお連れして、各展示コーナーの概要説明を追加しました。午後は公園内に手つかずで残されている土気往還の一部を歩き、最後に千葉大学医学部構内で七天王塚のタブノキを観察。七天王塚の由来、千葉氏とのかかわり、7~8世紀頃の古代国家時代の古墳の存在、都川の河口流域の自然環境・地形の状況も交えた説明をしました。



予定通り午後2時に終了、気温が30℃を超える屋外での講座でしたが、適度の休憩と水分補給、木陰を選んでの説明で全員体調を崩すこともなく、無事終了となりました。舗装道路の道と木陰の道で体感温度が5~6℃も違うことを実感、樹木のありがたさが身に染みる一日となりました。